



学校データ

【学級数】

16学級

【児童生徒数】

441人

【地域コーディネーター  
の有無】

有

## 地域の一員として、地域に貢献し、地域とともに成長する生徒

### 1 はじめに

当校では、①心を鍛え、粘り強く取り組む生徒、②主体的・協同的に学ぶ生徒、③よりよい自分を創造し、実践する生徒の育成を目指し、日々の教育活動を展開している。今後ますます多様性を強めていく社会に生きる生徒たちにとって、自他を尊重し、よりよい未来を築き上げるための資質・能力を身に付けることは不可欠である。

そこで、当校では、地域防災学習「防災の絆づくり」を総合的な学習の時間の中核に据え、目指す生徒の実現に向け取り組んでいる。

### 2 取組の実際

「防災の絆づくり」でねらう資質・能力は以下の通りである。

<知識・技能>

- ・防災など現代的な課題に対応するための知識・技能

<思考力・表現力・判断力>

- ・困難や問題点から自己や集団の課題を設定し、課題解決に向けて取り組み、自分の考えをまとめたり発信したりする力

<学びに向かう力、人間性>

- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、リーダーシップやチームワーク、優しさや思いやり等を発揮しようとする態度

### (1) 地域を知る

#### ①防災講演会（全学年）

災害被害と避難所運営についての理解を深めるために下記の内容で行う。

#### ア) ハザードマップの理解

今年度改定された東区ハザードマップを基に、主に洪水・津波時の浸水想定について東区役所区民生活課からの説明を受け、危険地域と避難経路・避難所についての確認を行う。

#### イ) 避難所運営についての理解

公益社団法人中越地区防災安全推進機構の松井千明氏を講師として、避難時や避難所運営に際し、中学生としてできることについて理解を深める。被災時における主体性を高めることもねらいとしている。



イ)防災講演会（9月）交流の様子

## ②認知症サポート講座（3学年）

新潟市包括支援センター並びに株式会社ツクイと連携し、高齢者への避難所における支援のあり方を理解させるために行う。講師からは、認知症の行動特性だけでなく、場所が変わるだけで不安に陥るという高齢者特有の特性についても説明がなされ、避難所生活を生徒にとってより現実的なものにする効果があった。



講師・職員による寸劇

## (2) 地域に貢献する

### ①三校合同避難訓練（全学年）

地震・津波避難訓練を近隣にある県立東新潟特別支援学校、アミック海老ヶ瀬保育園と合同で実施する。生徒は1次避難後、避難路での誘導や保育園児の避難支援等に取り組み、全員の迅速かつ安全な避難のために必要なことを体験によって理解する。

また、障がいを持つ同年代の子どもや幼児と接することを通して、多様性を理解する機会とする。



避難完了時の様子

## ③地域防災訓練

AED蘇生訓練、炊き出し訓練、物資運搬訓練、消火訓練等において、事前の消防署職員や地域リーダーによる指導・学習を基に、生徒が指導者をサポートする役割を務める。また避難所運営支援の一環として、高齢者や幼児との交流を生徒の企画によって実施する。このことによって、地域の中で、地域の人と共に生きる自分を実感させるとともに、「人の役に立った」という自己有用感の涵養をねらう。

## 3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

### (1) 生徒の変容（「学校評価」より）

- ・「地域のことを学ぶのが好き」と答える生徒の割合が上昇した。
- ・「地域の大人から誉められると嬉しい」と答える生徒の割合が上昇した。
- ・「自分には良いところがある」と答える生徒の割合が上昇した。

### (2) 地域の変容（「アンケート」より）

地域防災訓練アンケートの記述に以下のような記述があった。  
「中学生がみな頼もしく思えました。自分から声をかけてくれてありがたかったです。万一避難することになっても安心です。」

この記述から、主体的に課題解決に取り組む力を発揮したといえる。

## 4 おわりに

「防災の絆づくり」学習によって、地域からの学校への期待が高まっている。同時に地域からの支援もより厚く、温かくなっている。今後も、地域と Win-Win の関係を築きながら、地域のために一肌脱げる大形中学校、大形中学生を目指していきたい。